

視察の町から

地方は第4部

2

徳島県上勝町の葉っぱビジネスは思わぬ効果を上げている。「とにかく高齢者の笑顔が印象的だ」。町を訪ねた視察者は一様にそう語る。自然の中で地域の資源を生かして働き、認められる。それが生きがいや誇りを育んでいる。

コピーライターの糸井 町を知りたいと、今年7月、再び足を運んだ。

「はは日刊イトイ新聞」でおばあちゃんたちは仕事の話になると止まらな

い。笑顔のわけに合点が

いた。「働いて役に立つことが楽しくて仕方ないんだ」

が84歳になる針木ツネコさんだ。

朝8時。昨日のうちに集めたクリやモミジの葉のバック詰めを始める。

正午までに農協に出荷。午後5時、長男の妻の繁美さん(50)と一緒に翌日分の葉っぱを近くの山で取

もうひとつ、必ず見ることが出来るのが出荷農家の中での販売の順位だ。「これを見るのが楽しみ。負けたくない人が4、5人お

る。明日も頑張ろうと思

うんよ」翌日の準備をすませ、仕事が終わるのは毎日夜

めて、家族の会話も増えた

日本料理を飾る「つまもの」。20年前に始まった上勝町の出荷はいまや

全国の7割のシェアを占める。出荷農家は190軒。平均年齢は70歳だ。「いろいろ」副社長の

になった「家族仲がよくなった」……。そんな声が「いろいろ」には寄せられる。

80代のおばあちゃんからこんなお札の手紙も届いた。「上勝の自然の美しさに目が行くようになり、この町に生まれて良

かったと誇りに思えるようになった」

生きがいが増えた70%▽経済的なゆとりが増えた67%▽自信が増した43%――。

そう回答したほぼ全員が「健康」と答えた。実際、町の1人あたり老人医療費は69万5千円(04年度)。全国平均を10万円近く下回っている。

政府が8月に発表した06年版「高齢社会白書」は、昨年20%を超えた高齢化率が50年には35・7%に達すると予測。高齢

「自分が「主役」と思える仕事や、どんな福祉行政より高齢者の健康を支えている」。多田教授の分析だ。

写真家の立木義浩さんの実家で、NHK朝の連続ドラマ「なっちゃんの写真館」のモデルでもある立木写真館(徳島市)が10月に発行した写真集が市内の書店でベストセラーを続けている。

「いろいろ」おばあちゃんたちの葉っぱビジネス」。上勝の高齢者の笑顔が掲載されている。本の帯に撮影中のおばあちゃん、こんな言葉がつけられている。「世界中探したって、こんな楽しい仕事はないよ」

生きがい広がる笑顔

穫する。

夕方にはパソコンに向かい、事業を手がける町の第三セクター「いろいろ」が流す全国の市場の動向をチェックする。

「明日は力キが高くなるね」。相場を読み、値の高い葉っぱを選ぶ。

4世代7人で暮らす。町の第三セクターに就職してリターンした孫のために、稼いだお金で離れの新築費用を援助した。

繁美さんは言う。「毎日、忙しい、忙しいというれしそう。この仕事を一緒に働いてくれるよう

横石知二さん(48)は「葉っぱは軽くて、体の負担も少ない。山のどこに何が生え、いつ色づくかもよく知っている。高齢者のパワーが最高に生きる仕事だ」と言う。

「息子が会社を辞めて一緒に働くことが夢やった」。笑顔がはじけた一日吉健吾撮影

モミジを摘む農家。「息子と一緒に働くことが夢やった」。笑顔がはじけた一日吉健吾撮影



モミジを摘む農家。「息子と一緒に働くことが夢やった」。笑顔がはじけた一日吉健吾撮影

「いろいろ」おばあちゃんたちの葉っぱビジネス」。上勝の高齢者の笑顔が掲載されている。本の帯に撮影中のおばあちゃん、こんな言葉がつけられている。「世界中探したって、こんな楽しい仕事はないよ」